

普及センターだより

いぶり

第24号

発行
平成29年3月



豊浦町で新規就農！薬用作物栽培に取り組む！



2年間の研修を経て、晴れて平成29年4月から豊浦町桜地区で新規就農を果たした木村佳品(よしあき)さん、香菜子(かなこ)さんご夫妻。(株)サクラの構成員として、高齢化が進行する中、成長が期待される薬用作物の栽培に取り組みます。

佳品さんは札幌市出身。広島県の実業会社勤務を経て、故郷での就農を目指して脱サラしてきた異色の人

材。農業とは全く縁のないサラリーマンでしたが、会社が立ち上げた農場を任せられ、農業に目覚めました。

パートナーの香菜子さんは広島市出身、大手人材派遣会社で農業研修を担当。そこで佳品さんと出会い、お互いの夢をともに分かち合って豊浦へ移住。現在1歳の鈴(すず)ちゃんの子育て真っ最中。内浦湾を見渡す丘の上で、地域農業の担い手としての期待を一身に担っています。

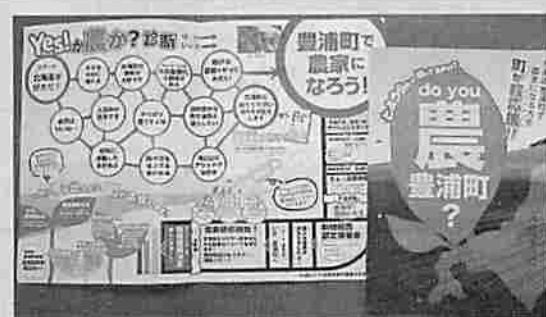
豊浦町で進む支援制度充実と環境づくり！

豊浦町では町内での就農を目指す人材を「超応援!!」しており、普及センターや各関係機関と連携して、就農を強力にバックアップしています。

農業体験を手始めに、就農研修の受入れ、研修資金の貸付や農地のあっせん、家賃の補助など、手厚い支援策を整備しています。

そして何より心強いのは、地域の農業者が担い手育成に非常に積極的、協力的であり、地域全体で暖かく受け入れていこうという雰囲気が行き渡っていることです。

地域の皆さんとともに、地域に担い手が残れる環境づくりを今後も進めていきます。



豊浦町が作成したの就農希望者向けパンフ
お問合せ：豊浦町農政振興課農政係担当職員まで
TEL 0142-83-1410 (直通)

普及センターの活動報告

むかわ町

『肉牛繁殖経営を核とした新たな地域づくり』

むかわ町春日地区は肉牛飼養に関する高い技術を持ち、その知恵や知識を伝承すべく集落の維持・存続を目指しています。

これらの新たな地域づくりを支援するため、普及センターは町担い手センターなど関係機関と



事例調査の様子

片道250kmを超える遠方へも精力的に先進地視察を行い情報を集め、農業者はもちろん関係機関も交えた懇談会では地区の想いへと集約する活動を進めています。

「春日に住んで、春日で研修し、春日に就農する」という願いを踏まえた取組の支援を今後も進めていきます。

連携し、次の活動を行ってきました。①「春日版営農類型モデル」を提案し、春日版営農ビジョンの作成支援、②肉牛参入希望者に対し、研修受入れ農家が経験・技術を簡単に説明できる「春日版肉牛秘伝の書」の作成支援を行いました。さらに、新規参入者が就農時に活用できるよう、草地管理台帳の整備などを進めています。

表1 提案された春日版営農類型モデルの例
黒毛和種繁殖経営・新規就農（機械中古・土地全借地の場合）

経営収支集計（単位：千円） 中古＝取得価格：新調価格の1/3
耐用年数：道基準の1.2倍

科目	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
農業収益	1,820	5,440	11,940	18,645	21,235
農業経営費	4,069	6,429	9,812	10,832	10,691
農業所得	-2,249	-989	2,128	7,813	10,544
農業所得率(%)			18%	42%	50%
家計費	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
農業所得	-4,749	-3,489	-372	5,313	8,044
資金返済			2,868	2,868	2,868
資金返済後収支	-4,749	-3,489	-3,240	2,445	5,176

厚真町

『豊かな環境と多様な農業の地域共生を目指して』

厚真町豊丘地区は農業を基幹産業とし、水稻を中心とした複合経営が行われています。新規参入者の育成支援に熱心な地域であるほか、郷土愛意識がとても高い地域です。しかし道内農業の課題でもある、離農や高齢化による労働力不足や、地域農業の担い手確保、さらに主要生産品目の高品質安定生産などの課題が顕在化しています。多様な農業の発展と地域共生の前進を図るために、普及センターでは以下の活動に取り組んでいます。

- ①畑作物（麦や大豆）の生産性向上
- ②水稻の収益性向上
（乳苗移植栽培や特別栽培米の導入）
- ③地域の目指す方向に沿ったアクションプランの策定（効率的な生産体制づくり）
- ④8月収穫トマトの花房切除技術など

このうち地域アクションプランの策定では、労働不足を解決するために「作業受委託による効率化で、収益性が向上する」等の提案事項を実際の数字で示し「効率化が見える化」したことで、意欲的な検討が始まっています。



乳苗移植の様子



懇談会・検討会（8/10）

地域のトピックス

洞爺湖町

『水産系堆肥を継続的に活用するために・・・』

洞爺湖町花和地区では平成16年に「花和有機肥料利用組合」が組織化され、地域バイオマスであるホタテ付着物を原料とする水産系堆肥の活用が継続的に行われています。

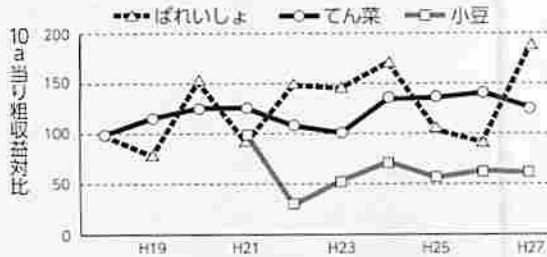
平成28年に、①施用効果の収益性を明らかにし、②課題改善に向けて「ばれいしょそうか病軽減対策」を行いました。③水産系堆肥の継続施用が、てん菜では安定的な収益増につながることを確認できました（図1）。

また「ばれいしょそうか病軽減対策」では、培土期にばれいしょ畦間に秋まき小麦をは種することで、「そうか病」の発生を抑制できるかを検討しましたが、効果確認にはならず、「亀の子症」については僅かながら効果が見られました。今後は、小麦のは種時期やは種方法に検討を加えていきます。



培土上に出芽した小麦

図1 収益性の推移



※てん菜は、現在の価格制度で算出

表1 発病度と病いも率

対象病害	ほ場No 試験区	No.1		No.2		No.3	
		発病度	病いも率	発病度	病いも率	発病度	病いも率
そうか病	慣行	2.9	11.7	3.4	11.1	5.6	21.5
	畦間小麦は種	1.5	6.1	9.5	31.0	7.8	28.7
亀の子症	慣行	70.3	25.2	23.0	6.7	81.5	39.6
	畦間小麦は種	50.4	14.8	35.9	11.8	56.7	14.2

壮瞥町

『幅広い活動を将来の糧に！YFC壮瞥』

『YFC壮瞥』は、経営感覚の醸成と地域振興への貢献等を活動の目的とし、壮瞥町内の若手農業者によって平成24年に設立されました（現在会員数15名）。

活動は会員の希望に添った内容を、話し合いで決めます。これからの農業経営や地域の発展を担うため、新たな経営手法や地域農業の振興について学ぶなど、視察や研修を通して、視野を広げ、仲間づくりを進めるなどの活動に活発に取り組んでいます。

あるときは「知ってそうで実は知らない」同じ地域の様々な経営について、会員の農業経営を皆で視察。そこでは会員自らが説明を行い仲間に自家の経営を解説。

またあるときは、町内加工施設での実習を通じて、地場農産物の利活用技術の基本や付加価値化について学ぶ。さらには希望者を募り、「数字に強い経営者！」を目指して「農業経営研究会」を立ち上げ簿記学習も始めました。

今後も様々な経験を仲間と共に積み重ねながら、将来の経営者になる技術と自覚を、ますます深めていくことが期待されます。



町内視察の様子



地場産トマトの加工研修



農業簿記研修

平成28年度 北海道指導農業士・農業士認定者の紹介

胆振管内では、新たに指導農業士2名・農業士1名が認定されました。
農業・農村の担い手の育成・確保、地域のリーダーとして今後の活躍が期待されます。

北海道指導農業士



高橋康二さん (安平町)
個人経営 野菜

北海道指導農業士



宮本義彦さん (安平町)
個人経営 水稻・畑作・野菜

北海道農業士



武田信一さん (安平町)
法人経営 畑作・野菜



宜しくお願ひします!

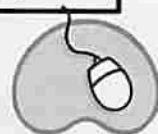
ご覧頂いてますか? 普及センターホームページの紹介



普及センターのホームページでは、折々のFAX情報、各種広域研修会のお知らせ、地域の話題などご紹介しております。是非一度ご覧下さい。

胆振普及センターで検索!

胆振普及センター



胆振農業改良普及センター

本 所

〒052-0021 伊達市末永町147番地
TEL: (0142) 23-3195・FAX: (0142) 23-2074
E-mail: seiiburi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

東胆振支所

〒054-0051 勇払郡むかわ町文京1丁目6番地
TEL: (0145) 42-2528・FAX: (0145) 42-5597
E-mail: toiburi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp